

崔書勉先生と私 『ハナから小生意気なまま破門されずに末弟子席居座り』

小野 五郎

崔先生に最初にお目にかかったのは、先に「五十五周年記念誌」の中で落合さんや草原さんから紹介があった伊豆天城での勉強会でした。

講師たちのどれも生煮えな話に飽き飽きしていたちようどその折、登壇した得体の知れぬ人物の口から出たのは、中身こそ忘れましたが唯一内容が濃いものでした。で、それまでの時間を無駄にしたという思いから、さっそく不躰に議論をぶっかけてみました。

というのは、講師が韓国人だと分かり、アジ研における中韓研究者との共同研究会で、中曾根内閣が日本の国防費をGNP 1%基準から僅かに超えさせたことについて、中国人研究者が真正面から「絶対看過できない」と強硬に非難したのに対して、韓国人研究者が「韓国人たる私の立場からは言いにくいことだが、日本の軍備増強は韓国にとつてたしかに脅威ではあるけれど、それ以上に中国の軍備増強の方が脅威だから、それとのバランス上、日本にもそれなりの軍備をしてもらった方がいい。第一、そもそも1%を超えたとは言ってもほんの僅かな金額で、中国の軍事費増額分と比べたら全く取るに足らないではないか」と反論したのを思い出し、それが韓国人一般の感じ方なのかどうか知りたかったからです。

ところが、「私は歴史文化が専門で政治的な話は分からない」という、まるでその辺の漬垂れ小僧扱いではぐらかされ、その上、それをそのままにして司会者が話題を転じたため、全く釈然としないままに終わってしまったという訳です。

それでも、幸い勉強会終了後、たまたま浴場で出会ったもので、これ幸いと、当時うろ覚えしていた韓国語で改めて挨拶し「若い時に一度ソウル・キョンジュ・プサンと回ったことがある」と話して渡りをつけ、夕食後に時間を取ってくれるよう頼みました。

約束どおり畳の上に浴衣がけでどつかと座っている勇姿を見出し私は、おっかなびつくり前に行き、今度は単刀直入に慰安婦問題について「ベトナム派遣韓国兵も連れていた」との現地情報を交えて見解を問うてみました。すると、ここでは当方の度重なる無礼にもかかわらず、不愉快な顔一つしないで、昼とは打って変わった歯切れのいい回答が得られました。で、つい喜んで杯を重ねているうちに、「みんなを連れて一緒に韓国に来ないか」という誘いがあり、「ぜひそうさせて戴きたい」などと答えているところに、他の受講者も参加しはじめ、いつか韓国行きの話は、そちらに引き取られていきました。お蔭で、後は、皆さんに御膳立てして戴いた旅行中、半ばお客さん気分でも韓国のあれこれを味わうこととなりました。

この訪問期間中、何人もの韓国政府要人に紹介され、その時になつてはじめて崔先生が本来なら私ごときが近寄るも憚られる大物だと知ったという、今にして思えば全くもって面目ない話です。なお、付言しますと、韓国でも他のアジア諸国同様「アジア研」の名前が非常に浸透していると知り、日本政府がなんでそこを十分に活用しないのかと残念に感じているところです。

いずれにしても、ほとんどの参加者が官僚ということ、みな生真面目に振る舞う中、私自身は学者という気楽な立場で、ただ一人随分と勝手な言動に終始し、他の参加者諸兄・諸姉をハラハラさせてしまいました。

例えば、交歓パーティーの席上で、崔先生から「君、自己紹介がてら何か言いたいことがあるんでは・・・」と水を向けられ、「私は、五郎という名前のおり男ばかり五人兄弟の末っ子です。で、子どもの頃、年の離れた長兄をおいて、年の近い次兄と三兄とがいつも兄弟喧嘩ばかりして困っていました。というのは、三兄の方が次兄より体も大きいし力も強い。しかも、自分が小さい時に次兄に世話になったことなんかすっかり忘れてる。でも、次兄の方は、あくまで自分が上だと思ってるから、

どちらも譲らない。・・・これって、下の小さな弟たちからすると、とつても迷惑なんですよ。ま、アジアでも、日本や韓国より小さい国がたくさんあるんですが・・・」てなことを言い、日本側参加者数人から「そんな微妙な話は、友好を深めるために催されたこの席には馴染まないよ」ときつくとしなめられたり。・・・もつとも、韓国側からは参加者数人が「いい話をしてもらった」と改めて挨拶に来てくれたんですが・・・

付言しますと、別の場ではありませんが、安重根居士への認識なども「韓国の人にとっては英雄、日本人から見ると暗殺者。その韓国人の目で日本を知り尽くし、その日本人の目で韓国を知り尽くすことこそ『日韓談話』じゃないかな」なんて偉そうに申したこともありまして。で、先生からは「本当に韓国を知りたきや、少なくとも安重根義士記念館、西大門刑務所、白凡記念館の三カ所だけは見て来なきゃ」と言われたもので、後に私的に韓国を訪れた際と合わせ三カ所すべて見学して参りました・・・少しは分かったのかな？

その折に気になったのが、日本語訳の説明がどこも自国民を対象にしたものをそのまま直訳したものだということ。このため、日本人の多くは、「安重根義士が伊藤博文を処刑した」と聞いて「また、韓国人は嘘をついて。あんなただのテロじゃないか」、あるいは「日帝は多数の政治犯に残虐行為を行なった」と聞いて「なるほど日本軍というのは、国内ばかりかこつちでも、ずい分悪いことしたんだな」（裏返せば、「日本人一般も軍の犠牲者であり、韓国でも悪いことをしたのは軍だけで一般人ではない」と認識する）という反応を示すに違いありません。だからこそ、若い日本人が、我々日本人にとっては史的恥部となる遺跡で、平気でイチヤツキながら記念写真を撮ることもなるし、それを見た韓国人がますます反日的になっていくことにもなる。・・・ここは、第三者的に表現すれば「安重根居士が民族の恨みを晴らした」のであり、韓国人にとつての史的憎しみの対象は抽象的な「日帝」とか「軍部」だけなのではなく、民間人を含む日本そのものだということ。我々日本人は、自分たちの祖先の多くが、韓国の伝統・文化を破壊し、韓国の愛国者を弾圧したという史的事実があるがまさに正確に理解しなくてはならない・・・なんて偉そうに言っていました。

そんな、いわば若気の至りで（当時すでに五十近く、決して若くはありませんでしたが）ヤンチャばかり、それがその後も談話室などでつい出てしまう。・・・それでも、受け止めて下さるのが崔先生だ・・・と勝手に信じ、七十をとうに過ぎた今でも言いたいことを言わせて戴いています。・・・はい。どうもすみません。

